

恵山・大千軒岳・渡島駒ヶ岳

毎日新聞旅行

15～17日

函館周辺の山を三つやっつけるツアーである。まずは恵山。硫黄の匂いがプンプンするガラガラ山である。東京を早朝に発って宿に着くまでにちょうど良い散歩コースである。わずか618mの山であるが、そこは北海道であって、高山植物もそこそこ咲いている。(例によって花の名前は教えてもらったが忘れた。)



メンバーは男5人・女13人で、今回も知ってる人がたくさんいて、名前を識別できる人が増えてきた。御座山(4月)・金北山(5月)に続いてIナバのバアサマがいる。昨年の四国と御座山(4月)で一緒だった元国鉄マンのS野さん、昨年の岩菅山のIナダのオバサン、その他名前は知らないが見たことのある人が何人かいる。先週八ヶ岳で会ったKザマさんは、6月始めの北海道は暑くて参ったと言っていたが、ここのところの北海道の天気予報は雨ばかりであった。どうやら今年の俺は雨男の傾向がある。



二日目が今回の本番とも言える大千軒岳(1072m)である。当初予定されていた松前町側からのルートは道路破損のため車が入れないということで知内ルートに変更になった。5時間の歩行予定が9





時間になってしまった。しかも危険度1のマークまで追加された。渡渉もある。往く時にはスパッツの威力で濡れることはなかったが、還りにはしっかり水が入った。おまけに天気も雨交じり。最初の3時間くらいは高巻きばかりで、結構登っているつもりなのに高度差は150mくらいしか稼いでいない。その反動が後半にいっぺんに来て急登急登の連続である。道は千軒平に出るまでは林の中の急登であり、千軒平に出た

途端に草原状になって高山植物も出てきた。高山植物なんて関心がないと思われたS野さんが意外に詳しい。私が判ったのはミヤマオダマキとナントカ・イチヤクソウぐらいだ。あとは聞いてももう忘れた。老人性痴呆症とは関係ない。もともと頭のキャパが少ないの



千軒平



ミヤマオダマキ



イチヤクソウ

だ。まあなんとか頂上にはたどり着いて、最近とみに弱くなった降りに入る。やはり前を行くバアサマに追いつけない。ザレ状の急な降りであるので、ドサドサという音まです。下りきるホンの5分間ほどであるが大粒の雨に見舞われた。キツイところでやられなくて助かったよ。この夜の宿泊は大沼プリンスホテルである。山での泊まりは大部屋にザコ寝と相場は決まっている



大沼プリンスホテル

のであるが、毎日新聞旅行はたまにこんなこともする。前日の知内温泉も豪華なご馳走であったので、酒も進んでしまってアンチダイエット山行になってしまった。

三日目は渡島駒ヶ岳であるが、噴火の可能性があるので馬の背までしか行くことができない。四駆であれば走れるであろうと思われる広い道を真っ直ぐに登る。2時間もかからない。そんな訳で、函館発 19 時 15 分の飛行機に乗るまでかなりの時間が余ってしまった。ツアーリーダーの

増田さんがバスの運転手さんと相談して函館山や函館ベイサイドの倉庫街へ連れて行ってってくれて時間つぶしをした。もっと早い時間の飛行機にしてくれればいいのにとあって聞いたら、遅い時間の方が飛行機の団体切符が安く買えるとのことであった。大沼でも倉庫街でも、韓国語や中国語が耳についた。外人さんが多いようだ。



渡島駒ヶ岳の馬の背



函館山から



函館ベイ倉庫街